

「行革甲子園 2020」概要

～集え全国のイノベーション！！行革オールスターin 愛媛～

1. 目的

行革甲子園は、自らの取組を全国に横展開し、また、全国の優良事例を自らの取組に活用することを狙いとした「地方の、地方による、地方のため」の取組であり、全国の市区町村が互いに高め合い、よりよい地域づくり・組織づくりを目指すことを目的としている。

2. 実施主体

主催 愛媛県
後援 全国知事会 他

3. 応募資格者

全国の市区町村（一部事務組合等を含む）

4. 事例の共有方法

- ・応募のあった全ての事例は、愛媛県ホームページに掲載する。
- ・当日の事例発表の様子は、愛媛県ホームページに写真、動画等を掲載する予定。

5. 募集対象事例

行政運営や事業実施における「効率化事例」や「効果の拡大事例」、「新しい手法の導入事例」等とし、例えば、次のような事例。

他の自治体との連携による効率化・効果拡大事例
公共施設等の有効活用・効果的なマネジメント事例
民間企業や大学等の知恵・ノウハウ・資金・パワーの有効活用事例
AI、RPA等のICTを活用した働き方改革に関する事例
業務の標準化・見える化等による改善事例
歳入増加や経費削減、組織の見直し事例
住民との協働や住民のネットワーク等の活用事例
新たな手法の導入等による地域活性化事例
Society5.0の実現やSDGs達成に向けたまちづくりに関する事例
その他の先進的・独創的な事例

6. コンテストの方法

応募のあった事例は、審査を経て優良な事例を表彰する。

ただし、より多くの事例を共有するため、事例提出のみの参加を希望する案件（最終審査への参加を希望しない）も受け付ける。

(1) 審査方法

① 1次審査（書類審査）

- ・複数の審査員にて書類審査を行い、発表事例（8団体）を選定。

② 最終審査（プレゼンテーション審査）

- ・プレゼンテーション審査によりグランプリを決定。

(2) 評価のポイント

「創」・「効」・「種」の3拍子揃った取組の観点に加え、プレゼンテーションの内容を評価。

創（そう）	創意工夫あふれる取組か、独創性・先進性があるか
効（こう）	費用対効果の高い取組か
種（しゅ）	他にアイデアの種を提供する取組か（他の自治体に広がる取組か）
プレゼンテーション	取組の意図や内容がよく伝わるプレゼンであったか

(3) 審査員

学識経験者及び有識者の6名

関西学院大学教授	小西 砂千夫	審査員長
愛媛大学法文学部教授	兼平 裕子	
有限責任監査法人トーマツ パートナー	小室 将雄	
READYFOR株式会社 パートナー開発部 地域事業責任者	富澤 由佳	
株式会社未来戦略研究所 代表取締役	根本 昌彦	
愛媛県知事	中村 時広	最終審査のみ審査

(4) 表彰

- ・ グランプリ 1点を表彰（副賞として記念品を贈呈）。
- ・ 表彰は、審査員長名で実施。

7. 「行革甲子園 2020」当日の概要

(1) 日 時

令和2年11月13日（金）12：30～17：00

(2) 場 所

松山市民会館 中ホール

(3) 内 容

- ①プレゼンテーション
8団体程度（1団体12分程度）
- ②特別企画
海外事例の紹介
- ③審査、表彰式

8. 全体スケジュール概要

①事例募集	4月1日（水）～8月7日（金）
②1次審査（書類審査）	8月上旬～9月中旬
③1次審査通過団体決定・通知	9月下旬
④「行革甲子園 2020」開催	11月13日（金）